

## COLUMN

### 農村をより楽しむための、知っておきたい用語集

#### グリーン・ツーリズム

農山漁村地域において、自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

#### 農泊

農山漁村地域に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」。



#### ワーケーション

「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用して、働きながら、休日はその地方の暮らしを楽しむ過ごし方。

#### ふれあいファーム

道民が気軽に訪問し、農作業体験や農業者との語りを通して、日ごろ接することの少ない農業の実際の姿に触れ、農村の魅力を感じてもらおうための交流拠点の役割を果たす農場。作物の収穫体験や牛の乳搾り、バター・ジャム等の加工体験、ファームイン、ファームレストラン、農産物や手作り食品の直売など、農場ごとに様々なメニューがある。



#### 子ども農山漁村交流プロジェクト

学ぶ意欲や思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校において農山漁村での長期宿泊体験活動を推進するプロジェクト。

#### ヘルスツーリズム

自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態であり、医療に近いものからレジャーに近いものまで様々なものが含まれる。

#### エコツーリズム

観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深める活動であり、自然観光資源の適切な利用を促進し、新たな観光需要を掘り起こすとともに、持続可能な観光のあり方として重要なもの。

#### 体験型観光

地域の資源・施設を見るだけでなく、実際に旅行者が参加したり触れてみて、旅行者の五感を通じてより実感する形の観光。



#### アドベンチャートラベル(AT)

自然、アクティビティ(身体的活動)、異文化体験の3要素のうち2つ以上を含む旅行形態。欧米を中心に大きな市場規模をもつ旅行分野。

参照:北海道経済部観光局観光振興課「第4期 北海道グリーン・ツーリズム展開方針(令和3年12月)」



## 「農林漁業をはじめとする町の魅力を感じ取ってほしい」

人と一緒にニシン漬けを作る体験も行っています。生産現場と皆さんが暮らす毎日の距離が近づくような取り組みを強化していきたいです」とゆうゆうそう支那人の松林さん。さらには広域展開も視野に入れているという。「近隣市町村と力を合わせれば、もっと魅力が高まるのではないかと考えています。今後の取り組みにも期待していただく。岸良さんは「生産者は苦勞した経験を語りたいたいの。ぜひ話を聞きにだけでも来てもらえれば」と笑う。体験の面白さ、食の大切さ、町の良さ、そして生産者との交流。そんなかけがえのないことが、ここでは待っている。



動画で Check!

詳しいお話を動画で見よう。

confa Instagram 検索

左から ゆうゆうそう支那人 松林 雅洋さん、  
取締役 岩倉 健悟さん、代表取締役 岸良 齊さん、  
取締役 谷口 一秋さん



株式会社STAY OBIRA  
小平町字小平町469-3  
TEL.0164-56-2380  
https://www.stayobira.co.jp

### 農山漁村の暮らし体験

## 生産者と体験者の距離が近づき 形のないものに価値が生まれる

小平町 株式会社STAY OBIRA

漁師町としてのイメージが強い小平町は、日本海の潮風が海のミネラル分を内陸にもたらし、栄養豊富な土壌を育んだおかげで、農業もとても盛ん。2018年、地域資源を生かしたインバウンド需要を見込み、4戸の農家、3軒の漁師、道の駅、ホテルが一堂に会して「小平町農泊ビジネス推進協議会」を発足。進めていく中で、生産者にもっと利益を還元できるようにと、2020年に都市農村交流施設「ゆうゆうそう」内に株式会社STAY OBIRAを設立し、本格的に農泊ビジネスに参入した。それぞれがアイデアを持ち寄り、何ができるかを話し合っ決めてたという体験プログラムは、農業も漁業も豊富な内容がそろっている。

同社取締役の岩倉さんが農場長を務める岩倉農場では、道内でも小平町だけで生産されている、吊るして作るアイボリーメロンの収穫や、トルコギキョウの出荷などの体験を実施。酪農業も営む谷口

ふあ〜むでは、小平牛の餌やり体験の他、手作りのピザ窯と焼き芋器で地元食材を楽しむことができます。「体験者も農家も楽しむことが大切。そこで生まれる交流はお金以上の価値があると思います。アイボリーメロンや小平牛など、ここでしか生産していない農産物を育てる農家と交流できるのも、この町ならではの特徴です」と同社取締役であり谷口ふあ〜む代表の谷口さんは話す。

同社の代表取締役であり、漁師でもある岸良さんはこの取り組みに関して、次のように意気込みを語る。「生産者だからこそ伝えられることがたくさんあります。例えばカレイやヒラメの刺し網体験では、実際に漁船に乗ってもらい、漁の迫力などを間近で感じてもらうことができます。体験内容を磨き上げて、形のないものにどれだけの価値を見出してもらえるかは、我々の力の見せどころ。体験を通じて小平町の良さを発信していくのが、STAY OBIRAの役割だと自負しています。」

現在は新型コロナウイルスの影響もあり、小・中学生の宿泊研修が多いが、これからは旅行者も積極的に受け入れていきたいそうだ。「ゆうゆうそう」は調理設備も備えた宿泊施設です。地元のお母さ